

広めよう!!地球に優しい「佐賀県自立循環型住宅」

エネルギー消費 50%削減を目指す住宅設計

平成28年2月3日(水) 午前9:30～午後4:30

(株)アルセッド建築研究所 代表取締役 大倉靖彦氏

まず、【温暖地版 自立循環型住宅への設計ガイドライン】のマニュアルを基に、自立循環型住宅を考える上で、「居住時のエネルギー消費の削減」と「心地よい室内環境の形成」を実現するために、①自然エネルギー活用と②建物外皮の熱遮蔽、そして、③高効率の設備機器導入の組み合わせが必要になるという基本の説明がありました。これを基に、住宅の設計フローとして、1. 与条件・要求条件を把握、2.に設計目標・方針を設定、3.建物配置計画、平面計画、断面・立面計画など基本的事項について配慮、4.要素技術の適用を具体的に検討、5.検討された設計案について、設計手順の概要の説明を受けました。2015年に省エネ法による施行が完全にスタートしたことを踏まえ、建築主への具体的な周知説明を設計者が積極的に行うことが必要になってくるとのことでした。

午前 11:30～午後2:30

九州大学大学院 人間環境学研究院 准教授 住吉大輔氏

続いて、屋根空気集熱式ソーラーシステムや太陽熱給湯、給湯設備計画、コージェネレーションシステム、暖冷房設備計画、そして、換気設備計画の具体的な設備計画の目的とポイント等の説明を受けました。具体的な例として、屋根空気集熱式ソーラーシステムによる省エネルギー目標レベルの達成要件として、レベル0からレベル4までの暖房、給湯、換気設備に消費されるエネルギーの合計に対する削減率の定義や、地域の気候特性が冬季の日射量地域区分が大きく関与すること。また、立地条件、建物の方位など効果を上げるための達成要件や方法を学びました。

午後2:30～午後4:30

国土技術政策総合研究所 建築研究部長 澤地 孝雄氏

最後に、日射遮蔽手法、日射熱の利用、照明設備計画、高効率家電機器の導入、太陽光発電、ケーススタディー、そして、省エネルギー効果およびコストの推移の説明を受けました。



(株)アルセッド建築研究所 大倉靖彦氏



九州大学大学院 准教授 住吉 大輔氏

講師の方々、貴重なお話ありがとうございました。そして、参加されました皆様、お疲れ様でした。

(一社)佐賀建築士事務所協会 (文責) 広報委員 田中 博昭